

ture

実技競技の試作に取り組む長崎西高の生徒 =長崎市竹の久保町



科学の甲子園に挑戦

兵庫県立総合体育館(西宮市)で21、24日に開かれる「科学の甲子園」(科学技術振興機構主催)に本県代表で県立長崎西高(田川祐治校長)の2年生8人が出場する。選ばれたのは同校の科学系クラブを中心に、物理、生物など各科目が得意な「精鋭」。本番に向けて試行錯誤を重ねている。

科学の甲子園は全国の高校生が科学の知識や技術を競うコンテスト。公開された競技内容は、2012年の第1回大会から3年連続出場している。

筆記(360点)と実技(720点)2種類の総合点を競う。実技種目は3競技あり、うち一つは事前に内容を公開。大会までに試行、試作ができる。他の2競技物理、生物の各分野から出題)は本番まで内容がわからない。理科実験室では生徒たちが顔を突き合わせて試作機づくりに没頭中。机

長崎西高選抜チーム



「科学の甲子園」に出場する長崎西高の生徒
=長崎市竹の久保町

筆記、実技の総合点競う ホーバークラフト試作中

の上には材料となる工作用紙やプラスチックコップがところ狭しと並ぶ。青田香菜子さんは「プロペラの形やモーターの位置など工夫するところがたくさんある」。互いにアイデアを出し合いながら、せっせと手を動かしている。既に三つの試作機が並んでいたが、まだ走らせる段階ではないようだ。

別の机ではマグネシウム空気電池を試作中。基本構造は決まっているが軽量化と安定した電圧確保のバランスが難しいという。接触不良で、競争中に機体が動かなくなっても困る。近藤孝恵君(化学部)は「本番に焦らなくていいように、決まった手順を確立しないと」と念入りだ。

難しい計算や化学式と向き合いつつ、実験室はいつも笑いが絶えない。「みんなと話せるのが一番楽しい」と今村春香さん(地学部)。知識や技術だけでなく、仲間との信頼もチームを強くしてくれそうだ。

(大倉大輔)